

第70回東北薬剤師会連合大会 参加報告

広報・情報委員会 白滝 貴子

令和元年9月7日、8日、福島県会津若松市に於いて「有朋自遠方来、不亦樂乎～朋有り遠方より来たる、亦樂しからずや～」をテーマに、第70回東北薬剤師会連合大会が98名の参加で盛大に開催されました。福島県薬剤師会町野 紳会長からは、薬剤師を取り巻く環境変化に対応するため、医療制度で薬剤師に求められる役割の発揮、地域包括ケアシステムにおける多職種連携、地域住民の健康管理と公衆衛生向上への3つの視点が必要であり、具体的には薬学的管理をはじめとする医薬分業の推進や在宅医療、後発医薬品の使用促進などに取り組み、地域住民から求められるかかりつけ薬剤師・薬局としても機能を充実させていくことが重要になるとのご挨拶がありました。

また、日本薬剤師会山本 信夫会長の来賓ご挨拶では、今秋の臨時国会で審議される見通しの医薬品医療機器法（薬機法）改正案については、11月半ばになるのではないかとの説明があり、2020年度調剤報酬改定に向け、薬剤師の仕事が診療報酬上でも正しく評価されるように進めていくとの考えが示されました。

その他来賓の方々からのご祝辞を頂戴したのちに、薬事衛生功労者表彰式へと移りました。本県からは、青森県薬剤師会常務理事の近井 宏樹先生と理事の鈴木 喜博先生が受賞されました。

続いての特別講演は「地域社会での看取りと支援」のタイトルで、臨床仏教師でもあられる長照寺副住職の楠 恭信氏にご講演を頂きました。臨床仏教師の存在自体が知られていないところからのスタートで、会津医療センターでの傾聴ボランティアからの道のりなど、大変興味深い内容でした。

***講演内容はPDFをご覧ください。**

その後、東山温泉を十分に堪能したのちに懇親会が開催され、東北6県の薬剤師皆で交流を深めました。

2日目は初日の特別講演の内容も踏まえて、メインテーマを「社会の構造変化と薬剤師の職能将来像」とし、4つのサブテーマでバズ・セッション（少人数のグループで蜂の羽音のように活発に話し合い、考えを出し合う）が行われました。

サブテーマ1「全人的苦痛と薬剤師の関わり」

サブテーマ2「無薬局地区への対応」

サブテーマ3「町内会や商店街の薬剤師の連携」

サブテーマ4「自殺予防と薬剤師」

全体会議では、この4つの視点から、薬剤師がどのような役割を担うべきかについて議論し、サブテーマ2の無薬局地区への対応では、背景にある薬剤師不足や偏在問題を中長期的な視点で解決していく必要があるとの意見が上がり、高校生を対象とした職場体験や実務実習を行う薬学生へのアプローチなどに取り組む重要性が指摘されました。

活発な意見交換により、社会の構造変化に伴う薬剤師の柔軟な対応の必要性がはっきりと見えてきた大会となりました。

***バズ・セッションの各グループ発表内容はPDFをご覧ください。**